UNBOUND 2026 ｜ セッション要約

チャットの先で、仕事を片づける

Breeze Assistant: A New Way to Work

Breezeアシスタント（Breeze Assistant）が、事業のコンテキストをもとに答え、エージェントを作り、共有できる成果物に仕上げるまでを、画面を操作しながら示すセッションです。

登壇者	Kolin Koehl・Adam Stevenson（HubSpot）
日時	2026年9月17日（木）9:45-10:15 ET
会場	HubSpot Heroes Stage
作成	株式会社100／2026-09-29





Kolin Koehl

前半: 考え方の整理

Senior Director, Product,
HubSpot

Service Hub と Breezeアシスタントの GM 兼
プロダクトのシニアディレクター。
Observe.AI、VoiceBase、Medallia で
AIと音声の製品を作ってきた



Adam Stevenson

後半: 製品のデモ

Senior Product Manager I,
HubSpot

Breezeアシスタントの中心にある
エージェントの仕組みを作るチームを率いる。
CRM、グロース、AIにまたがる
B2B SaaS の経験は10年

© 100 Inc.

多くのAIは答えるだけ。Breezeアシスタントは尋ねる、つくる、仕上げるを1か所で支える。

チャットは始まりにすぎず、仕事はその先に続く。
事業に根ざし、チームのために作られ、そのまま共有できる状態までを1つの画面で進める。

01

尋ねる（ask）

依頼の言葉だけでなく、背後の
事業を理解して答える。Projects と
コンテキストホーム（Context Home）が支える

02

つくる（build）

探しに行かなくても必要な助けを
呼び込む。ゴールを言葉で書けば
エージェントができる

03

仕上げる（create）

答えを、形を整えて共有できる
成果物（Artifacts）にする。
版は常に1つ

© 100 Inc.

Projects で全員が同じ文脈から答えを得る

マーケティング、営業、サービスがAIに話しかけたとき、全員が同じ答えを得られるかが大きな課題になる。
プロジェクトは HubSpot の CRM につながった共有ワークスペースで、全員が同じコンテキストを引き継ぐ。

チャットをまとめるフォルダ

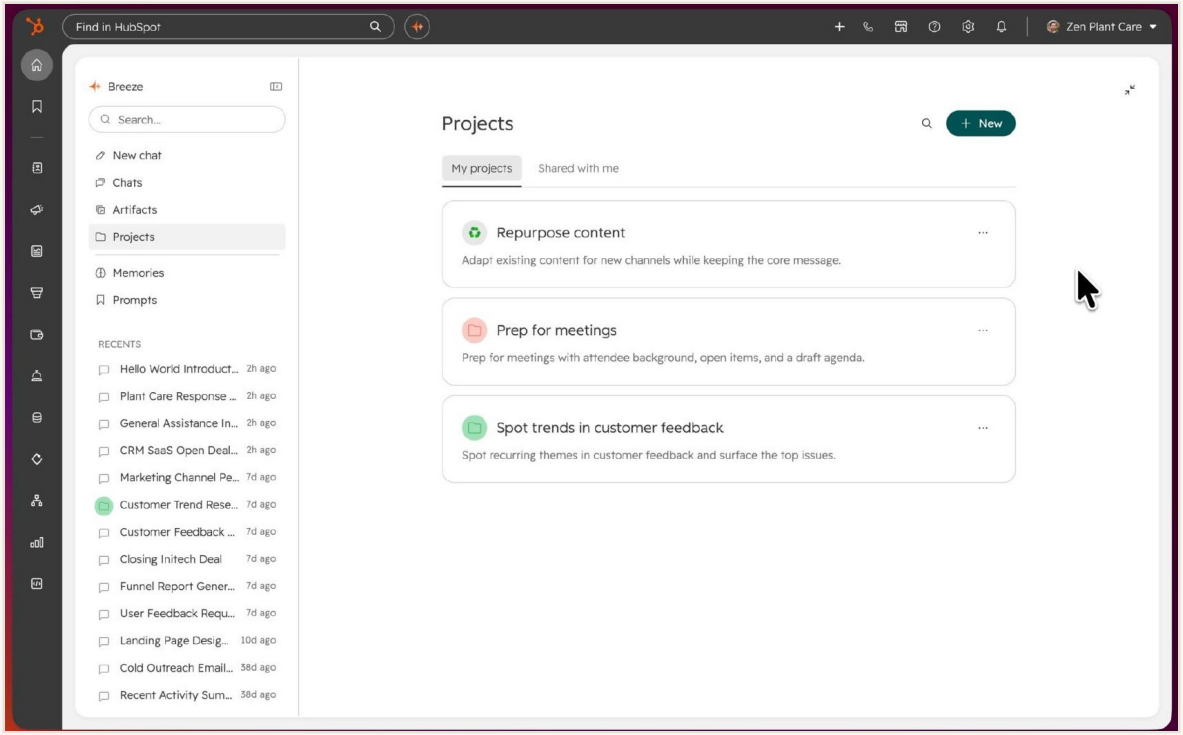
その中でチャットする人は全員、
紐づいたコンテキストを引き継ぐ

紐づけるもの

指示、ファイル、Knowledge Vault、
コネクター。メンバーと共有する

テンプレートから作る

指示が最初から入っているため、
指示の書き方を覚えておかなくてよい



Projects の一覧。用途ごとのプロジェクトが並ぶ

© 100 Inc.

コンテキストは読むだけでなく書き戻す

コンテキストホームは Agent Hub の新しい要素で、事業全体のコンテキストが集まる場所。
Breeze はここを読むだけでなく、見つけたインサイトを書き戻す。

書き戻せないAI

- データはマーケティングの市場調査、
  プロダクトのメッセージ、営業とサービスの
  現場から同時に入ってくる
- インサイトは、コピー＆ペーストの
  時点で散ってしまう

コンテキストホーム

保持するもの

業界、競合、理想的なお客さま像、
営業のやり方、Brand Identity

書き戻し

失注メモ、アンケート、サービスのチケットから
引き出したインサイトを Brand Identity に反映する

© 100 Inc.

AIについてお客さまと話して分かったのは、
チャットは始まりにすぎないということ。
仕事はチャットの先に続いていく。

When we talk to customers about AI now, we realize that the chat is just the start.
The work continues well beyond the chat.

Kolin Koehl ／ Breezeアシスタントが目指す働き方について

© 100 Inc.

エージェントはゴールを言葉で書いて作る

ワークフローが力を発揮するのは、手順を完全に定義できる場合。
Agent Hub では、プロンプトを設計する代わりに最終的なゴールを説明する。

1 ゴールを書く

例: 今週どの見込みのお客さまに注意を
向けるべきかを、理由とともに知らせる

2 Breeze が聞き返す

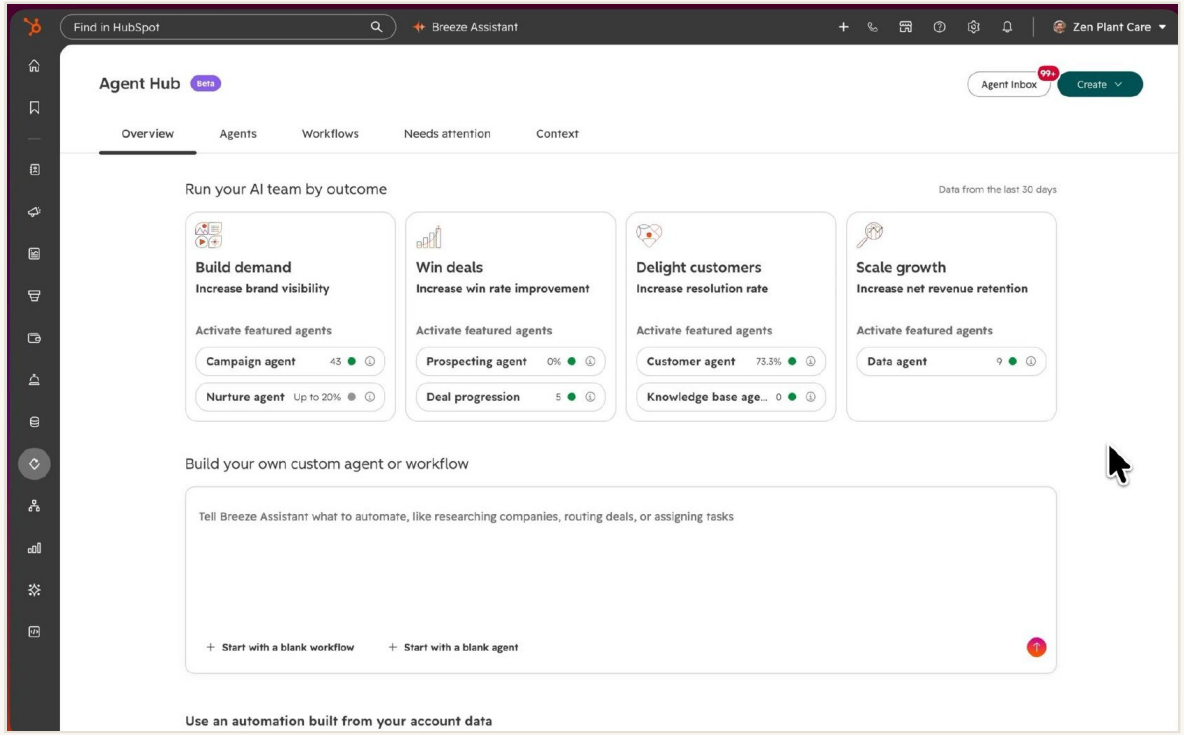
定義、対象、受け取る形式、見るシグナル

3 計画を承認する

何をするか、どの頻度で動くかを確かめて
ビルドする

呼び出しとクレジット

@ でアシスタントから直接呼べる。クレジットを
消費するたびに消費量の通知が届く



Agent Hub。成果ごとの推奨エージェントと作成の入力欄

© 100 Inc.

Slack とモバイルからも同じ Breeze を呼ぶ

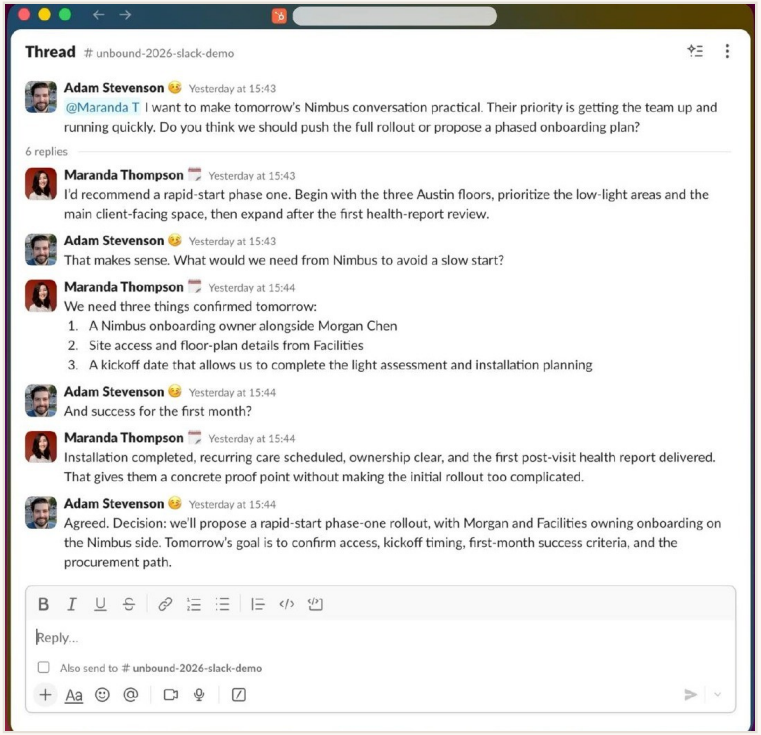
Slack のスレッドで頼むだけで、決定を会社のレコードにノートとして残せる。
会社名もスレッドの文脈も説明しなくてよい。

Slack

社内にずっといるベテランの従業員のように、
スレッドの文脈を理解して動く

Breeze Voice

HubSpot のモバイルアプリで、音声で操作する。
短く答え、途中で割り込んで補足できる



Slack のスレッド。やりとりの文脈を Breeze が読む

© 100 Inc.

答えを共有できる成果物に仕上げる

Artifacts は、仕事が形になる面。お客さま向けのブリーフィング、メール、社内向けのレポートを、対話の中から作る。

インタラクティブにする

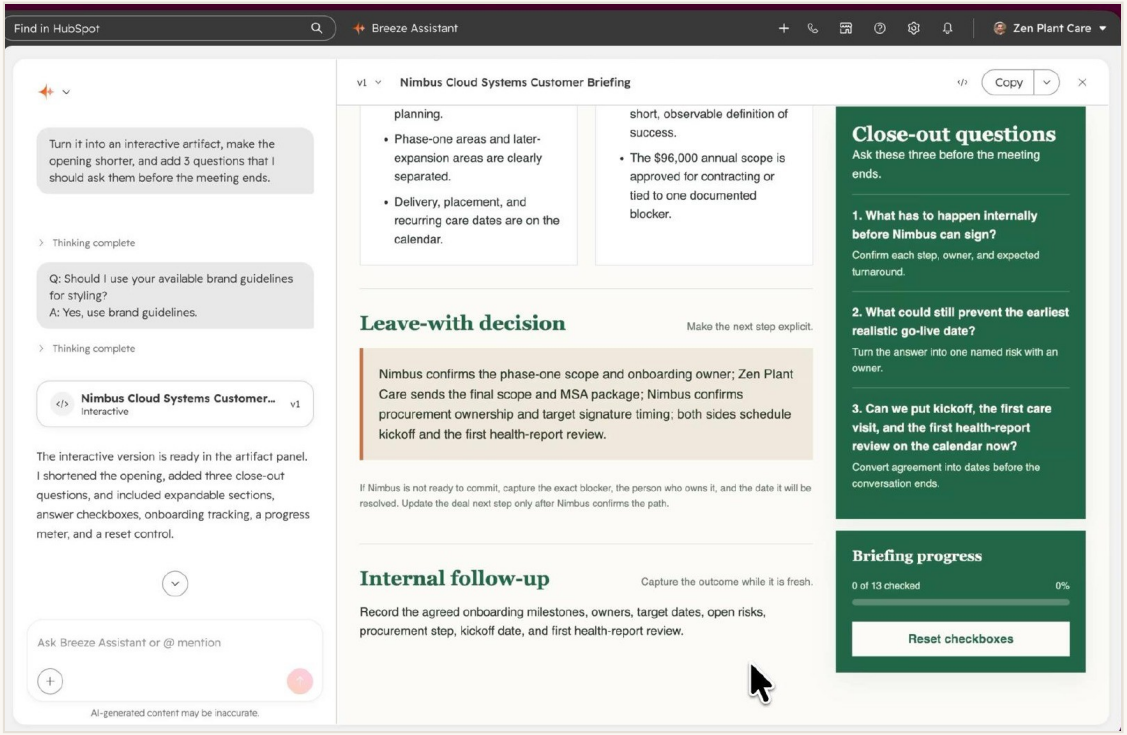
頼むと、いくつか質問したうえで、
チェックボックスなどを備えた Web
アプリケーションに近いものに作り変える

お客さま向けのポータルに近づく

以前は開発者に頼み、1社ごとに作っていた

社内向けのレポート

インタラクティブなグラフと、主要な数値の
タイルを持つ



インタラクティブにしたお客さま向けのブリーフィング

© 100 Inc.

成果物は共有でき、版は常に1つ

Artifacts は、仕事を共有する場面のために作られている。
更新すれば、共有先にもそのまま反映される。

01

社内で共有

チームのメンバーと
同じ成果物を見る

02

書き出す

対応する形式に書き出す。
PowerPoint への
書き出しも発表済み

03

外部リンク

CRM に入れない相手にも、
パスワードで保護した
リンクで渡せる

04

版は1つ

「最終版」「最終版2」を
管理しなくてよい

あるお客さまの言葉では、Artifacts は自分たちのデータでストーリーを語る手段になる。
GTMに携わる人にとって、ストーリーを持つことは最も難しいことの1つ。

© 100 Inc.

まずは、片づけたい仕事を言葉で説明するところから始めてみてほしい。

I encourage you just to start by describing the work that needs to get done.

Adam Stevenson ／ どこから始めればよいかについて、セッションの締めくくりに

© 100 Inc.

出典と注意点

出典

公式セッションページ

https://unbound.hubspot.com/sessions/SESS-458

公式スライド

Breeze Assistant: A New Way to Work
（25ページ）

公式AIサマリー

HubSpot が AI で作成したセッション要約

当日の講演記録

2026-09-17

読むときの注意点

- 登壇者は HubSpot の社員で、自社製品の説明。
  画面と項目名はセッション時点のもの
- 対象プラン・提供時期・料金と
  クレジットの上限設定には触れていない。
  効果を示す数値もセッションに含まれない
- 外部リンクは、公式スライドでは「パスワードで保護」、
  当日の説明では「公開のアクセスリンク」。
  保護の方式は公式ドキュメントで確かめてから案内する
- Breeze Voice は会場では実演されていない

本資料は、公式スライド、公式AIサマリー、当日の講演記録をもとに株式会社100が要旨を日本語で整理したものです。
逐語訳ではなく、製品画面の図版は公式スライドから引用し、そのほかの図表は株式会社100が作成しています。

© 100 Inc.